



主要な農作物の生育情報

平成23年度 第2号
(平成23年 7月11日)
福島県農林水産部農業振興課



【水 稲】

7月5日現在の農業総合センターの生育調査では、いずれの地域でも草丈が平年より長め、浜地域のコシヒカリを除き葉色が濃い目となっております。

茎数は会津では少ないですが、本部と浜地域では平年並みからやや多め、葉齢は会津地域が平年並みですが、本部と浜地域ではやや進んでいる状況です。

表1 水稲の生育状況 ()

調査場所	品 種	移植期 (月・日)	7月5日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉齢	葉色
本 部	コシヒカリ	5.16	64.8 (124%)	722 (106%)	10.2 (+0.6)	38.1 (+3.3)
	ひとめぼれ	5.16	61.3 (118%)	744 (98%)	10.3 (+0.6)	40.1 (+2.6)
浜 地 域	コシヒカリ	5.10	62.5 (109%)	688 (100%)	10.5 (+0.7)	35.3 (-2.2)
	ひとめぼれ	5.10	65.1 (110%)	902 (116%)	10.6 (+0.6)	41.2 (+0.2)
会津地域 研 究 所	コシヒカリ	5.20	64.9 (108%)	570 (82%)	10.0 (-0.1)	36.2 (+1.6)
	ひとめぼれ	5.20	62.5 (104%)	692 (90%)	10.0 (-0.1)	40.3 (+3.7)

調査：農業総合センター本部（郡山）、浜地域研究所（相馬）、会津地域研究所（会津坂下）
()内の数字は平年比または平年差。

【大 豆】

6月に入り播種作業が進みました。播種後まとまった降雨が無かったところでは出芽が3～4日遅れている状況です。

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

5月下旬に定植したもので、平年並みの6月20日頃からの収穫開始となっております。高温の影響で一部に萎れや芯焼け症状が発生していますが、概ね順調な生育となっております。病害虫ではべと病、ウィルス病、アブラムシ類の発生が見られます。

2 夏秋トマト

県南地方の2月下旬から3月上旬にかけてのは種の作型では、現在8段果房が開花で3段果房の収穫中で、生育は平年並みとなっております。害虫ではハモグリバエ類の発生が見られます。

南会津地方では、6月上中旬に定植が行われ、現在4段果房が開花中で生育は順調です。収穫開始は平年並みの7月20日頃から行われる予定です。

3 サヤインゲン

県中地方の定植作業は、平年よりやや遅れ5月中旬から6月中旬に行われましたが、定植後の天候に恵まれ生育は平年並みに回復し、収穫は6月中旬より行われています。

害虫ではアブラムシ類、ハモグリバエ類の発生が見られます。

4 夏秋ピーマン

県中地方でのトンネル栽培の収穫開始は平年並みの6月下旬から行われており、露地栽培も7月10日頃より行われる予定です。害虫ではアブラムシ類、アザミウマ類の発生が見られます。

5 夏秋ナス

県中地方での露地栽培の収穫開始は平年並みの6月20日頃から開始されています。害虫ではアブラムシ類、ハダニ類が散見されます。

6 アスパラガス

会津地方では露地栽培は5月下旬から立茎を開始しており、現在擬葉展開中です。半促成栽培は6月中旬から夏秋どりの収穫を開始しています。

南会津地方では、露地栽培は6月中旬から立茎を開始しています。半促成栽培は6月下旬から夏秋どりの収穫を開始しています。

【果 樹】（7月1日現在：農業総合センター果樹研究所）

1 モ モ

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」の縦径が平年比101%、側径が99%と平年並み、「ゆうぞら」の縦径が平年比95%、側径が92%と平年より小さい状況です。果実の生育日数（満開後の日数）による比較でも「あかつき」は平年並み、「ゆうぞら」は平年より小さい肥大となっています。

農業総合センター果樹研究所によると、「あかつき」の収穫開始は平年より3日程度遅く、収穫盛りは平年より2日程度遅いと予測されています。

2 ナ シ

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」の縦径が平年比103%、横径が106%、「豊水」の縦径が平年比105%、横径が108%と両品種ともに平年より大きい状況です。果実の生育日数による比較でも、両品種ともに平年より大きい状況です。

農業総合センター果樹研究所によると、「幸水」の収穫盛りは平年より3日程度遅いと予測されています。

3 リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」の縦径が平年比105%、横径が103%と平年より大きく、「ふじ」の縦径が平年比102%、横径が104%と平年よりやや大きい状況です。果実の生育日数による比較では両品種ともに平年より大きい状況です。

【花 き】（7月1日現在）

1 キク類

露地栽培の小ギクや輪ギクでは、8月咲き品種の草丈や節数は、ほぼ平年並みの順調な生育です。9月咲き品種では、定植後の摘芯作業も順調に終了し、側枝が伸び始めていますが、草丈はや

や短い傾向が見られます。

2 リンドウ

会津平坦では、露地栽培の極早生品種が6月下旬から順調に出荷を開始しています。南会津でも、トンネル被覆や施設利用による極早生品種の出荷が、6月下旬から開始していますが、雪解けの遅れから例年より7日程度遅れました。

早生品種の生育は、やや遅れ気味でしたが、ほぼ前年並みの草丈(84～98%)に回復してきました。

高温乾燥条件が続いたため、リンドウホソハマキやアザミウマ類の寄生が見られています。

3 シュッコンカスミソウ

高冷地の越冬株栽培での出荷は、7月中旬から最盛期となる見込みです。なお、秋出荷に向けた抑制栽培の定植作業は7月下旬で完了予定です。

害虫は、ハモグリバエやヨトウムシ類の発生がみられます。

4 トルコギキョウ

会津地方の無加温促成栽培は、ほぼ平年並みに7月中旬が出荷のピークとなる見込みです。また、季咲きの作型では、7月から計画通りに出荷されています。

抑制栽培の定植は、8月上旬まで行われますが、定植後の生育は順調です。

5 シンテッポウユリ

須賀川地方のシンテッポウユリは、早生系の2年生株が「うつみね」中心に6月下旬から出荷が行われており、現在、最盛期を迎えています。

【飼料作物】

1 牧草

一番草は、平坦部では5月下旬から6月上旬、山間部では6月上旬から中旬に収穫盛期となり、収量は平年並みからやや少なくなっています。

なお、一番草は放射性物質の影響で、県内の多くの地点で乳用牛及び肉用牛への利用が制限されています。

二番草は、一番草の刈り取りが平年よりやや遅れたことから、草丈の短い地域も見られますが、平坦部では7月中旬、山間部では7月下旬に出穂期を迎え、収穫期となる見込みです。

2 飼料用とうもろこし

平年に比べ播種作業が遅れた地域も見られましたが、5月から6月が比較的天候に恵まれたことから、順調に生育しています。

病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報(ホームページ
<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>)等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/gijyutsufukyuu/seiikugijyutsujyouhou.html>